



アルプスアルパイン株式会社  
資材本部購買企画1G

神田キャンパス5号館にて

# 青木真珠子さん

将来よかったと思えるように。  
今をしっかりと生きる。

悩んでいた入学当初。でも、周りの言葉に助けられ、目の前のことに誠実に取り組むことで、未来は開けてきたという。そして、社会に出て3年目を迎えた青木真珠子さん。その言葉からは、今も変わらず、誠実に生きる姿が伝わってくる。

美しい電子部品を究める——この言葉に惹かれたという。

「電子部品って普通隠れて見えませんよね。でも、見えない部分の美しさにまで気を使っている。そこまで一つの製品を究めるって、この言葉に企業の姿勢が表れていると思ったんです」

アルプスアルパイン(旧アルプス電気)はスマートフォンや自動車などに組み込まれている電子部品を作っている会社だ。就職活動時、このキャッチフレーズに、同社のモノづくりに対する真摯な姿勢を感じたのだと、青木真珠子さんは目を輝かせて語る。

念願かなっての入社だった。あれから2年と3カ月。

入社後、宮城県の工場での3カ月の新人研修では、同期と寝食を共にしながら製造現場を経験した。

「まず現場に行かせてくれて会社のことを知ることがで

あおき たまこ

1993年東京で生まれ、福岡県北九州市で育つ。2013年専修大学法学部入学。大学時代はサークル「法学研究会」に所属。17年に卒業し、アルプス電気株式会社(現アルプスアルパイン株式会社)入社。研修後、宮城県の古川工場に配属。19年から東京本社勤務。休日は、大学時代の友達や会社の同期と遊んでリフレッシュしている。

きました。同期ともすごく打ち解けましたし、工場でお世話になった上司は、配属が変わった今でもまるで親のように気にかけてくれています」

研修後、宮城県の古川工場の購買課で資材の調達を担当。現在は東京本社に移り、資材本部購買企画1Gで契約書等の管理業務に従事する。

「まだまだ覚えなければいけないことがあるので、家に帰ってからも勉強しています。なかなか結果に結び付きませんが、今が頑張り時だと思っています」

## 気乗りしなかった入学が一転、将来につながる

大学入学を前に、福岡から東京に向かう飛行機の中、気持ちは晴れなかった。

「一年間浪人して、あれほど勉強したのに…」



↑大学卒業を前に新宿でサークル「法学研究会」のコンパ（前列左から2人目）



↑入社して3カ月、同期の女子と（前列右から3人目）



↑会社の同期とご飯を食べに。大学時代にアルバイトをしていた飲食店で（右から2人目）

希望の大学、学部には入れなかった。都心にあるからという安易な気持ちで受験した専修大学法学部。入学を決めたものの、法律を学びたいわけではなかった。

悶々と過ごす大学での日々。夏を迎えるころ、ある先生から言われた一言が心に刺さる。

「どの大学に入ったかが重要ではない。大学で何をやるかが重要だ」

目の前を覆うもやが晴れた。

「編入試験の勉強もしていましたが、せっかく学費も払っているのに大学の勉強に向き合わないのはもったいないなって。まずは法律をしっかりと勉強してみようと思いました」

授業以外にも、エクステンションセンターの憲民刑法について学ぶ講座も受講した。そして、しっかりと勉強したうえで改めて思う。「やっぱり法律の勉強は自分には向かない」と。

法学部では3年からゼミが始まるが、入りたいゼミは見つからず、教務課に相談に行った。すると、憲民刑の主要な法律だけでなく、それ以外も見てみることをアドバイスされた。

その結果、選んだのが知的財産権を研究する久保次三ゼミだった。これがハマった。3年次に学んだ特許法が、「すごく面白かった」。夏には自動車メーカーの特許を管理する会社のインターンシップにも参加。そこで体験が将来の進路を明確にしてくれた。

「一つ一つの技術を『特許公報』と照らし合わせていきましたが、ここが特許になるんだとか、こんな発想どうやって思いつくんだろうって、いろんな発見がありました。一つの部品にも様々な特許が入っていて、そこにロマンも感じました。自分に発明を生み出すことはできないけど、技術を守り広めるような仕事に就きたいと思いました。それがメーカーを志望するようになった動機でした」

## 🌸 マイナス思考、そして甘え上手? 🌸

大学時代は日本料理店でアルバイトをしていた。ここでは、一度来たお客さんの好みを覚えることを心掛

けた。

「自分がされて嬉しいことをやろうと思いました。それが次に来てくれた時に、ちょっとした会話の糸口になりました」

覚えることは苦手なので、逐一ノートにメモしたという。そういった誠意は相手にも伝わる。大学卒業時には、常連客たちから写真とメッセージが寄せられた一冊のサイン帳をプレゼントされた。それは今でも宝物だ。

先のことを考えて不安になるマイナス思考な面がある。そして、4人きょうだいの末っ子のためか、困ったことがあると人を頼りがち——そう自分の性格を分析する。

就職活動では早くから準備を進め、就職課の就職相談に足しげく通ったという。そういうところにも、その性格は表われているのかもしれない。

「人に頼りながら、周りに軌道修正してもらって、これまで生きてこれました(笑)。でも、それが許されるのも20代までと周りからは言われます。今後は自分一人で打開できるようになりたいです」

今年の1月にグループ会社を統合し、会社は新しくなった。現在の部署では契約書もシステムも一から構築しているところだ。そこが楽しくもあり、責任にも感じている。

「プレッシャーで自信がぐらつきそうになる時もありますが、入りたくて入った会社です。そして自分を選んでくれた会社ですから、乗り越えたいです」

実は就活の最終面接では、エントリーシートなどの提出書類を一切合切忘れてしまうという失態があったのだが、それでも面接を受けさせてくれ、そして、不思議なくらい自分を素直に語れたのがこの会社だった。

「大学受験の挫折があったから、大学で勉強に打ち込めたし、いいゼミに出会え、今の会社につながりました。ですから、挫折もよかったと思えます。仕事は大変だけど、将来振り返ったときによかったと思えるように、今をしっかりと生きたいです」

目の前のことでいっぱいいっぱい、遠い先の夢はまだ語れないという。でも、目の前のことを一つ一つ頑張ることが、明るい未来につながると思うと明るく語った。